

8月29日(木)に、北広島市役所総務部危機管理課防災専門官の西澤弘充氏をお招きし「学校が避難場所になったら～備えと被災時の対応を考える～」と題して、実技理論研修会を行いました。



平成30年に発生した大阪北部地震や豪雨災害そして胆振東部地震など、近年の悲惨な災害状況が報告された。あわせて避難場所での必要品や開設するまでの流れなど具体的な話があり、段ボールベットや携帯トイレ、簡易テントなども紹介された。



学校が避難場所になった時の、養護教諭の役割や養護教諭に求められることについても話があった。

学校が避難所として運営される場合であっても、学校は授業の早期再開を目指す必要がある。そのためには、避難所と並行して授業再開の可能性を考えていかなければならない。また養護教諭は学校で唯一の医学的知識を持つものとしては、期待値が大きい。学校一丸となり関係機関とも協働連携しチームとして対応することが重要であると話されていた。



後半には、避難所運営ゲームHUG北海道版「DOはぐ」を体験した。短い時間ではあったが、学校が避難所になった時のシュミレーションができ大変勉強になった。多くの避難者が様々な事情を抱えて避難してくるため判断の難しさを痛感したなど、参加者からの声があげられた。



最後には、災害はいつ発生するかわかりません。自助・共助・公助の協働連携が重要だと締めくくられた。

参加した私たちも、去年の胆振東部地震から1年。改めて災害への意識を高め、考えさせられる有意義な研修となった。

